

台風に対する農業技術対策（夏期）

令和 7 年 8 月 1 9 日
鳥 取 県 農 業 気 象 協 議 会
鳥取県農林水産部農業振興局経営支援課

農作物等の管理

区 分	予想される影 響	対 策 の 内 容
共 通	1 資材等の飛散 2 二次災害の発生 (水難事故、土砂災害等)	<事前対策> 1 畜舎、農機具庫等の戸締まりを徹底するとともに、屋外にある飛散しそうな資材等は建物等の中に入れる。 2 突然の突風も考えられるため、台風の接近時は、ほ場及び用排水路等の見回りや作業等は行わない。 <事後対策> 1 ほ場の見回りや作業は、突風などの危険がなくなった時点で開始することとし、人命最優先、二次災害の防止に務める。 2 大雨により増水した河川、用排水路等に近づかない。 3 豪雨による土砂災害が予想される場合は、傾斜地や溪流沿いのほ場など、危険な所に立ち入らない。
水 稻	【風害、塩害】 1 不稔粒の発生 2 海水等の流入による塩害	<事前対策> 1 フェーンによる急激な蒸散過多が要因となる不稔及び乳白粒の発生や、強風による穂や茎葉の擦過ダメージが要因となる光合成能の低下を防ぐため、水尻の堰板を調節し、降雨量に応じて適度に水を張る。 2 渇水と風台風が重なる場合は、ポンプアップや番水によって足跡水を目安に節水しながら入水し、可能な限り多くの水田で湿潤状態を保つ。 3 風雨の強い時と満潮が重なった場合、海水が用排水路を通して水田に流入するおそれがある所では、樋門等の管理に十分注意する。 <事後対策> 1 大雨等によって冠水した水田では、なるべく早く排水する。 2 海水等塩分を含む水が流入した水田では、なるべく早く排水するとともに、可能な限り塩分濃度の低い用水を確保し、かけ流しによって塩分を除去する。
大 豆	【風害、浸冠水害】 1 生育抑制 2 風害による水分ストレスと病害発生	<事前対策> 1 速やかに排水できるよう、排水路を清掃して、ほ場内の明渠を排水口とつないでおく。 2 開花期間の干ばつとフェーンが重なると、水分ストレスによる生理的障害（落花・落莢等）が発生するため、早めの畝間かん水によって可能な限り土壌水分を確保しておく。 <事後対策> 1 大雨等によって浸水したほ場では、なるべく早く排水する。 2 強風によって葉が損傷やストレスを受けると、葉焼病の発生を助長するため、殺菌剤の追加防除を検討する。

区 分	予想される影 響	対 策 の 内 容
野 菜	【風害】 1 パイプハウスの破損、倒壊等 2 作物の折損 3 葉ずれ等による病害発生 【浸冠水害】 1 根腐れや草勢低下にともなう病害発生 2 うねの崩壊	＜事前対策＞ 1 パイプハウスの対策については、別紙「パイプハウスの強風被害対策」を参照。 図 1 アーチパイプ地際の補強 2 倒伏の恐れがある白ねぎほ場は、畝上面の土を株元に押し込み支える（高温期（最低温度 20℃以上）の土寄せは軟腐病等の病害発生を助長するので控える）。または、畝の両サイドにハウスバンド等を張って支えとする（図 2）。 3 トンネル栽培は、ハウスバンドを強く締め直すとともに、風が吹き込まないように砂袋等でトンネル被覆の裾を押さえる。 4 ながいも等の支柱は倒れないよう地面にしっかりと差し込む。 5 アスパラガス等ネットを用いる作目では、支柱を補強するとともに、ネットを強く張る。 6 雨水が停滞して根傷みが生じないように、排水対策を徹底する。明きょや排水路は排水の妨げとなる土砂やゴミを取り除いておく。 7 パイプハウスなどの施設内に雨水が流入しないよう、周囲に排水溝を設置する（6、7は別添の野菜花き排水対策事例を参照）。 8 ラッキョウ、白ネギなど露地野菜の植え付けは、台風の進路を確認し、場合によっては台風通過後に植え付ける。 9 砂丘畑で飛砂による被害の恐れがある場合は、散水を行い飛砂を抑える。 図2 白ネギの強風対策 （畝の両側に支柱を打ち、ハウスバンドを強く張る）

区 分	予想される影 響	対 策 の 内 容
(野 菜)		<事後対策> 1 台風通過後、風が弱まり次第、直ちにハウスおよびトンネルの換気を行う。 2 浸冠水した場合は、ポンプ等を用いて速やかに排水する。 3 水が引いて作業が可能になり次第、倒伏したものを起こすとともに、畝間に追肥を行って軽く中耕培土し、草勢の回復を図る（ただし、高温期は控える）。 4 植え付け後に飛砂で埋没したラッキョウや白ねぎは、速やかに掘り起こす。 5 損傷や草勢低下による病害の発生を防ぐため殺菌剤を散布するとともに、必要に応じて葉面散布剤を加用し、草勢の回復を図る。 6 被害がひどく回復の見込みのない場合は、植え替えや代替野菜を作付けする。
花 き	【風害】 1 パイプハウスの破損、倒壊等 2 すれ傷等による品質低下 【浸冠水害】 1 土壌の急激な水分変化による根腐れ 2 草勢低下にともなう病害発生	<事前対策> 1 パイプハウスの対策については、別紙「パイプハウスの強風被害対策」を参照。 2 露地栽培の作目は、支柱の点検・補強を行ったうえでフラワーネットを緩みのないよう張り、風害に備える。 3 切り前に近づいた花は出来るだけ収穫する。特に、盆用出荷規格は通常期より切り前が早いので、注意する。 4 施設内に収容していない資材は、強風による飛散がないよう固定する。 5 停滞水による根傷みを生じないように排水対策を徹底する。明きょや排水路を整備し、土砂やゴミは取り除き、スムーズな排水を促すようにする。 6 豪雨によるハウス内への雨水、土砂の流入防止のため、ハウス周囲にも明きょを施工し、明きょは確実に排水口に接続する。 7 冠水に備えてポンプ等による強制排水の準備をしておく。 <事後対策> 1 風雨が弱り次第、直ちにハウスおよびトンネルの換気を行う。 2 浸冠水した場合は、ポンプ等を用いて速やかに排水する。 3 損傷や草勢低下による病害の発生を防ぐため殺菌剤を散布するとともに、必要に応じて葉面散布剤を加用し、草勢の回復を図る。

区 分	予想される影 響	対 策 の 内 容
果 樹	【風害】 1 果実の落下 2 枝折れ 3 苗木、わい性りんごの倒伏 4 ハウス等の施設の損壊 5 潮風害による葉やけ、落葉 6 葉の損傷による病害発生 7 乾燥被害 【浸冠水害】 1 根傷み	＜事前対策＞ 1 事前に防風網、竹垣、果樹棚等の点検と補修を行い、強風による枝折れや果実の落下を防ぐ。 特に、苗木や幼木の枝は支柱にしっかり固定し、樹体の倒伏、折損を防ぐ。 2 ナシの着果している側枝を棚面に固定し直し、揺れによる落果を防ぐ。 3 育成中のジョイント苗は、しっかりと支柱に固定する。必要な長さに伸びている苗は棚面に倒してもよい（支柱が折れると苗も一緒に折れるので、弱い支柱は補強する）。 4 ブドウハウスは完全に密閉し、バンドを強く締め直して強風に備える。風が弱まり日差しが出てきたら、高温障害を避けるため風下側を開けて換気する。 5 収穫の始まっている品種については、可能な限り収穫する（収穫の目安については、各生産組合の方針に従う）。 6 大雨に備えて排水溝を補修、清掃し、雨水がスムーズに園外へ排出できるようにする。 7 降雨が少なく、フェーン現象等により高温乾燥状態となる場合もある。樹の状況や土壌水分状態を確認し、乾燥傾向であれば適宜かん水を行う。 ＜事後対策＞ 1 沿岸部の園で樹体が潮風を浴びた場合は著しく落葉するので、危険が去り次第できるだけ速やかに散水して除塩する。 2 降雨の滞水がある場合は、溝を切って速やかに排水する。 3 枝折れ等の損傷がある場合は、速やかに枝を戻し、ビニールやテープで傷を保護する。折れ方が激しい場合は枝を切り落として、切り口に癒合剤を塗布する。 4 法面が崩れたり、水路が土砂で埋まったりした場合は、速やかに補修する。 5 防風網、防風垣、網掛け施設に被害が出た場合は、速やかに補修する。 6 降雨が少なく、高温乾燥状態であれば樹の状況や土壌水分状態を確認し、速やかにかん水を行う。
飼 料 作 物	【風害】 1 長大作物の倒伏 【浸水害】 1 根腐れ	＜事前対策＞ 1 湿害を防ぐため、ほ場の外周に額縁明きよを施工し、水が停滞しないように排水口へ確実に連結する。 ＜事後対策＞ 1 作付ほ場に水が停滞した場合は、排水路側の畦を切る等早期の排水に努める。

区 分	予想される 影 響	対 策 の 内 容
家 畜 管 理	【風害】 1 畜舎等施設の損壊 【浸冠水害】 1 飼料の変質、腐敗 【畜舎内環境】 1 高温・高湿度によるストレス発生	<事前対策> 1 雨や風雨による畜舎内への雨水の浸入を防止するため、屋根等の点検・補修を行う。 ただし、風が強まったら、事故を避けるため作業を中止すること。 2 畜舎周辺の排水路からの水の浸入を防止するため、排水路の清掃等に努める。 3 ほ場の堆肥盤に堆肥が積んである場合、堆肥が流出しないように努める。 4 ラップサイレージをほ場に保存している場合は、牛舎敷地内の排水の良い場所に移動しておく。 5 湿度が高く温度上昇が懸念されるため、畜舎内の換気と家畜への送風に努め、暑熱ストレスの軽減を図る。 6 敷料は乾燥したオガクズ等を用いる。 7 停電に備え、発電機等予備電源の準備・点検を行う。 <事後対策> 1 畜舎が浸水した場合は排水に努めるとともに、浸水した畜舎は消毒する。 2 土砂及び雨水が混入した飼料は、変質、腐敗が生じるので、給与しない。